

議会だより

CONTENTS

2021.8.1 vol.71



- 2 ... 6月定例会 ここに注目!
- 3 ... 常任委員会報告 総務厚生委員会・産業建設文教委員会
- 6 ... 6月定例会で審議された案件
- 8 ... 選挙公報・意見書・表彰
- 9 ... 一般質問
- 14 ... 平戸のチカラ



岩の上町に移住された高木さんご家族

とかいせん

No.71 2021.8.1

平戸市議会だより

編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170

FAX22-3427

E-mail: gikai@city.hirado.lg.jp



このコーナーでは、平戸市にU・Iターンし、地域で元気に頑張っている皆さんをご紹介します。

海と教会のある風景に一目惚れ。自然に囲まれた生活に大満足。

高木大郷さん(40歳)、智恵子さん(38歳)ご夫妻は、ご家族で埼玉県川越市から平戸市岩の上町に移住して来られました。海の近くに住みたいという希望を叶え、平戸市での生活を満喫されているご家族を紹介します。



高木さんご家族(撮影:大郷さん)

●移住へ決断

島原市出身の大郷さんご家族は、令和2年8月に埼玉県川越市から平戸市に移住して来られました。川越市では、ご自宅が妻・智恵子さんのご実家に隣接していたことから、ご両親の協力を得ながら生活していましたが、マイホームの建替えの検討を機に、将来は「大郷さんの地元へ」という思いがあったことから移住を決断。「いつまでもご両親に甘えるのではなく、自立した生活を送らなければ」という思いもありました」と大郷さん。住み慣れた地を離れることになった智恵子さんは、両親を残しての移住となりましたが、「川越市には姉妹がいるので安心していきます」と、ご家族での移住を決意しました。

●平戸へ移住

移住先の候補地としては、大郷さんの地元に近い長崎県内で、海に囲まれた地に住みたいという希望から、当初は五島市への移住を検討します。しかし、五島市に移住されたご友人を訪れた際、交通の不便さと先に移住された友人へ依存してしまうことを懸念し断念。次の候補地として、智恵子さんの好きな教会がある風景と海に囲まれた景観の綺麗な平戸に魅力を感じ移住を決めました。「平戸市には知り合いもいない状況でしたが、下見の際に泊まった民宿の方の人の良さや市の移住担当者の方の丁寧な対応が平戸への移住の後押しとなりました。今でも感謝しています」と話します。



智恵子さん作「平戸城」

●平戸での生活

「平戸での生活は、想像以上に住みやすい環境でした。まず、生活の中の音が変わりました」と大郷さん。「埼玉での暮らしの中では人工的な音が多かったのですが、平戸では鳥の声や風の音など自然豊かな音に囲まれて気持ちが安らぎます」。絵画を趣味に持つ智恵子さんも、「休日は、家族で市内をドライブしたり、平戸の風景を描くことが楽しみです。今の自宅は、海にも徒歩で行ける場所で、家族で釣りに行くことも楽しみの一つです。釣り友もできました」と笑顔で話します。

●今後について

「移住することへの唯一の不安は、子ども達が転校先の学校や生活に慣れるかどうかということでしたが、すぐに環境に馴染み、今では平戸の方も話します」と高木さんご夫妻。「外食も減り、生活にゆとりができ、健康的になりました。もっと早く移住すれば良かったと思っています。コロナ禍で中止となった市内のイベントも将来参加できることを楽しみにしています。気持ちや時間にゆとりができた今の生活を大切に、これからも家族で平戸巡りをすることを楽しんでいきたいです」と、充実した生活を話してくださいました。



休日は家族で近所の釣り場へ

広報特別委員会

委員長	池田	稔巳
副委員長	松尾	実
委員	井元	宏三
委員	近藤	芳人
委員	山崎	一洋
委員	山本	芳久

早いもので、今委員会での議会だよりの表紙のテーマである、「移住定住(U・Iターン)」の方々取材して今回で7回目となる。改めて取材に快くご協力を頂いた皆様に感謝とお礼を申し上げます。同時に多くの自治体の中から平戸市を選んで頂いた事に嬉しさも驚きもある。何が決め手だったのか。全てに恵まれている都会と違う中に、豊富な自然の恵み、人の優しさ温かさ、落ち着いた静かな生活環境が魅力的で一番の決め手でしたよ、と言われて、視点の相違を感じた。今後は、固定観念を改め何事においてもこだわりを持ちながら、「柔軟な視点の創意工夫」に取り組みなければ!と思いついたこの移住定住シリーズの取材でした。(松尾 実)

編集後記

